藤井様、石原様、谷田病院の皆様、

4 日間のインターンシップでは大変お世話になりました。

快適な寮も提供して下さりありがとうございます。この4 日間は本当に充実していて多様な体験、様々な人達との出会いから、たくさんの事を学ぶことができました。このような機会をたった一人の為に設けてくださり感謝しかありません。本当に一生ものの体験になりました。家族に医療従事者は誰もいないため、今まで漠然としていた医療現場を実際に見学することができ、医者になりたい気持ちはますます強くなりましたが、たとえ医者になれなかったとしても、将来は医療現場で絶対に働きたいと思いました。

スタッフ全員がそれぞれの仕事をし、お互いサポートと信頼をし合いながら、一丸となって患者さんの治療をしていくチーム医療がとても好きでした。谷田病院の医師の先生方や熊本大学の医師の先生に出会い、自分が目指したい医師像のイメージを抱くことができました。またたくさんのスタッフさんの優しさに触れて、私もこんな大人になりたいと強く思いました。目標となる人物像、仕事像をイメージできたのは今回得た中で一番大切なものです。まだまだ学ばなければならないことは山積みですが、この体験を無駄にしないよう努力していきます。

今回の4 日間のインターンシップの記録と学んだ事、それに対しての感想をまとめたものを添付させて頂きます。(日本語と英語が混じってますが、、、) これだけ多くの事を学ばせて下さり大変ありがとうございました。

そして藤井様、お食事をご馳走して頂き大変ありがとうございます。ご馳走様でした。

また機会がありましたら是非皆様にお会いしたいと思っています。

お身体にお気をつけてお過ごしください。

どうぞ皆様によろしくお伝えお願い致します。

福岡インターナショナルスクール 12 年生

鈴木 愛海

7.4.23

谷田病院 案内：

一階：外来

二階：職員室

三階：入院（60 日まで）包括ケア

四階：入院：介護病棟

五階：介護医療棟

訪問診察

８０代の患者：膵臓癌

黄色の肌：膵がんにより胆管が圧迫されることがあり、胆管への圧迫が進むと、胆汁の流れ

がさまたげられ、全身が胆汁により黄色くなる黄疸という症状が出現します。

ヤングケアラー（社会問題）

終末期の患者が多い（３−５名）

病態に合わせて訪問回数を決める

週１・２程度

診察

聴診器：心臓・背後

お腹の診察

薬の調整（針の薬）

尿の量を確認

看護師：スケジュールなどを作成

リハビリ

介護リフト

ネットを患者の下にひき、機械を使って患者を吊り上げる

介護士の腰痛を防ぐ

リハビリ施設の施設基準として畳とキッチンは必要条件

リハビリを受ける患者

認知症

高齢化によりおよそ７００万人（四人に一人）

転倒をすることがあり、リハビリが必要となる

腫瘍

神経の麻痺

病人を少しでも楽しませるために季節ごとのイベントを病院内で祝う

ハロウィン：仮装など

七夕の飾り

リハビリは午前と午後（一日2 回）

目標があれば患者さんはやる気が出る

体を動かして、元の状態にするのが最適

日本では介護士になる人が減っているため、海外から雇っている

バイタルサインを確認して、患者の体調によって、リハビリを調節している

部屋でリハビリをすることもある

毎日リハビリをしている

テレビ・ゲームなどの刺激を与える

手や足でものに触れさせる

脳に刺激を与える

流動食は海外（フランス）では違法とされている

個人の意志を聞かずに食糧を与えるのは虐待だと見なされている

終末期の患者は事前にターミナルケアの話をする

本人の希望を事前に確認しておく

家族の希望も聞く

患者の居所を確認するために：

センサーがついたマット

患者が部屋から出た時にはナースコールがなる

カメラで観察

ベッドにセンサー

患者は二、三時間おきに左右にひっくり返さないといけない

床ずれを防ぐ

栄養状態でベッドのマットを選ぶ

多種職：

月の振り返り

患者の人数確認や病態を話し合う

地域連携：

他の病院と連携をとり、患者を招待をする

他の病院の施設の限度を把握して、患者をうつす

転院・クリニックなどとも繋がる

入院の手続き

患者の健康だった状況の記録（退院の判断に影響）

今の状況

Thoughts:

Reflecting on the first day at Yatsuda Hospital, the facility was spacious and the staff members

were all very friendly, making the workplace very comfortable. When I went to visit one of the

patients in their home, I met a family where the patient’s granddaughter was taking care of

the patient. She had to care for her grandmother whilst working which made me realize how

difficult her situation was as she had to devote all of her time to taking care of her grandmother.

The hospital staff supports her greatly by providing her with information on when she should

call for emergency help and creating a schedule for her grandmother. Next, I went to visit the

rehab center on the fifth floor where most of the patients were elders and were on end-of-life

care. The patients could not move and had to travel in a wheelchair. Most patients were in

bed and only moved when they had to do rehab. Rehab consisted of training to walk, moving

arms, and playing memory games. The staff counted the number of reps and sets as they did

the activity. I realized how difficult it is to be a caretaker as you are responsible for taking care

of someone who cannot do anything on their own. It made me value the importance of life

and made me respect the patients who continued to strive to live even when relying their

entire self on the care workers.

【👇参考翻訳】

感想:

谷田病院での初日を振り返ると、施設は広々としており、スタッフの皆さんはとてもフレンドリーで、職場はとても快適でした。患者さんの自宅を訪れた際には、患者さんの孫娘さんが祖母の介護をしている家族に出会いました。彼女は仕事をしながら祖母の世話をする必要があり、彼女の状況がどれだけ困難であるかを実感しました。彼女は祖母の世話に全ての時間を捧げなければならない状況だったのです。病院のスタッフは、彼女に対して緊急時に電話するタイミングや祖母のスケジュールを提供することで大いにサポートしています。

次に、5階のリハビリセンターを訪れました。そこでは、ほとんどの患者さんが高齢者で、エンド・オブ・ライフ・ケアを受けていました。患者さんたちは動くことができず、車椅子で移動しなければなりませんでした。ほとんどの患者さんはベッドにいて、リハビリをする必要があるときにしか移動しませんでした。リハビリには歩行訓練や腕の動かし方、記憶ゲームなどが含まれていました。スタッフは活動を行う際に、回数やセット数を数えました。自分自身では何もできない人の世話をする責任を持つ介護者の大変さを実感しました。それによって、生命の重要性を再認識し、自分自身を頼りに生きようと努力し続ける患者さんたちに対する尊敬の念が生まれました。

フォームの始まり

7.5.23

小児科

患者:

⚫ コロナの影響で感染症の患者が多いため、車から診察をする。

⚫ 電子カルテ

◯処方箋や問診票をパソコンで打つ

■プリンターに繋がる

⚫ 感染症になる子が多い

◯胃腸炎

■ウィルス・バイ菌からかかる

■検査キットではなく、症状から病態を判断する

◯気管狭窄

⚫ 患者１：九ヶ月の赤ん坊

◯貧血：離乳食時期と思春期

■鉄が足りない：鉄のサプリメント

⚫ 患者２：

◯乳糖不耐性：消化酵素のラクターゼの欠乏により乳糖が消化できない状態

◯下痢

⚫ 同時接種

◯4 回まで打てる

⚫ 患者３：手足口病

◯手や足にブツブツ

子供のうちにいろんな病気に感染するが大人になれば体が慣れるため感染症になりにくく

なる。

先生：

森先生 aimed to be a doctor as she experienced 疾患 when she was young and wanted to

help young children. She also loves children and knew that she wanted to follow the path of a

pediatrician while in university. She discussed the qualities of being a doctor as a woman and

how she took a career break to raise her children. This led her to fall behind in her work and

she had to do an internship again once she returned to get back on her feet.

【👇参考翻訳】

森先生は、若いころに疾患を経験し、若い子どもたちを助けたいという思いから医師を目指しました。また、彼女は子供が好きで、大学時代に小児科医の道を進むことを決めました。彼女は女性としての医師の資質や、子育てのためにキャリアを一時中断した経験について話しました。これにより、仕事に遅れをとり、立ち直るために復帰後に再びインターンシップを行う必要がありました。

栄養士の病院食：

I had あんかけ with eggs, a bowl of rice, シュウマイ, and soup. It was a very

balanced meal and the eggs were very tasty. I did not think I would find

あんかけ to match my taste, but it was surprisingly very delightful.

【👇参考翻訳】

私は卵のあんかけとごはん、シュウマイ、スープを食べました。とてもバランスの取れた食事で、卵もとても美味しかったです。自分の好みに合うあんかけが見つかるとは思っていませんでしたが、驚くほど美味しく感じました。

緩和ケア：

⚫ 患者の希望に合わせる

◯例えばある患者は自分の奥さんを愛しているため、会いたがっていることを

考慮しながら病院側はケアを進めている

⚫ 家族の事情も考える

⚫ 患者の気持ちの気遣いをし、病院としてどう見守っていくのかが大事！

医療ケアカンファレンス：

⚫ インシデントリポート（患者に起きた問題を話し合う）

⚫ 医者の診断に責任がかかるが、看護師も責任を負うべきか？

熊本大学病院：

I got to observe the emergency room where patients are delivered first-hand from the

ambulance. The patient suffered from 心筋梗塞 and the patient monitor showed signs of

irregular heartbeats. The ER was structured where there were three doors between the

entrance of the ambulance and the ER. This was to avoid any air from the outside to

contaminate the room. I also had a conversation with the 循環器 specialist and he talked to

me about the qualities of his specialty and how those who wanted to avoid treating patients

with cancer would choose this area as the heart rarely gets cancerous. The hospital was very

spacious with four floors and it was renovated so it was still fairly new. In the future, I hope to

work at a hospital similar to 熊本大学病院 as I loved the facility and the supplies they had in

store. I also talked to a 教授 who worked in the 総合診療科. These specialists deal with the

diagnosis and (nonsurgical) treatment of diseases of the internal organs and also treat the

mental well-being of patients. (primary care) He explained the steps of being a doctor which

included: 医学部 (六年間) → 国家試験 → 臨床 (二年間) → 専門. There are 19 different

types of specialties one could follow. Compared to overseas, the medical system in Japan does

not have distinct 一次救急・二次救急・三次救急. Most patients are delivered to the closest

hospital and unless the hospital cannot under any conditions accept the patient, they will

operate on them. Kumamoto has several emergency hospitals in the city and thus can examine

many patients. On the other hand, in countries such as America, there is a clear distinction

between the stages of emergencies, and patients are to be transferred to the respective

hospitals that deal with a specific stage of emergency. Thus ambulances must confirm with

the hospital before transporting the patient. The system in Japan is beneficial in that it delivers

the patient to the closest hospital and saves time, however, it is said to be unsustainable and

inefficient considering the number of doctors. Every 4-5 years there is a conference held to

discuss the 医療計画 and this year would be the 8th. Upon this discussion, small changes

would likely be made to alter the current system.

【👇参考翻訳】

私は救急病院の救急室で、患者さんが救急車で直接搬入される様子を観察する機会を得ました。その患者さんは心筋梗塞を患っており、患者モニターには不整脈の兆候が表示されていました。救急室は、救急車の入り口と救急室の間には3つの扉があり、外部からの空気が室内に侵入しないようになっていました。また、循環器科の専門医とも会話をし、彼は自身の専門分野の特徴や、がん患者の治療を避けたいと考える人々がこの分野を選ぶ理由について話しました。心臓はめったにがんにならないためです。病院はとても広々としており、4階建てで、リニューアルされていたため比較的新しかったです。将来的には、熊本大学病院のような病院で働きたいと思っています。その施設や備品に魅力を感じました。

また、総合診療科で働いている教授とも話しました。この専門医は内臓の疾患の診断や非手術的治療、また患者のメンタルウェルビーイングのケアを担当しています。彼は医師になるためのステップについて説明しました。医学部（6年間）→国家試験→臨床（2年間）→専門医です。専門医には19種類の異なる専門分野があります。日本の医療制度は海外と比べて、一次救急・二次救急・三次救急という明確な区分がないことが特徴です。ほとんどの患者さんは最も近い病院に搬送され、病院がどんな状況でも受け入れ可能であれば手術が行われます。熊本市には数多くの救急病院があり、多くの患者さんを診察することができます。一方、アメリカなどの国では、救急の段階に明確な区分があり、患者さんは各段階の救急を扱う病院に転送されることになっています。そのため、救急車は患者さんを搬送する前に病院と確認する必要があります。日本の制度は最も近い病院に患者さんを搬送するため時間を節約する利点がありますが、医師の数を考慮すると持続可能性に欠けるとされています。医療計画については、4〜5年ごとに会議が開催され、今年で8回目になります。この議論に基づいて、現行の制度を改善するための細かな変更が行われる可能性があります。

フォームの始まり

7.6.23

内科 (一般)

医療秘書:

⚫ 診断書や証明書などの文書作成の補助

⚫ 患者のカルテ管理

看護師が不足しているため、代わりに秘書が入って医者を支えている

(秘書は看護師と違って処置などはしないため内科は適切である)

「管理」のラベル

⚫ 慢性疾患の算定をできる印

診察の様子:

目の膜:

⚫ 黄色みがあれば肝臓を疑う

⚫ 赤みが落ちていれば貧血の可能性がある

足元:

⚫ 腫瘍や腫れの確認

⚫ 傷の確認

患者の多くは高齢者が多いため、このような病態の患者が頻繁に訪れる:

⚫ 糖尿病

⚫ 高血圧

シェーグレン症候群・膠原病:

⚫ 中年女性に好発する涙腺と唾液腺を標的とする自己免疫疾患であり、主症状は唾液

涙液分泌不全による口腔乾燥、眼球乾燥など

⚫ 大学病院に送った

Thoughts:

I loved how humane and humble the 内科医師 was and how well he treated his fellow

assistant. Though I only observed for an hour, I could tell that he treated his patients with

care and was the doctor I strive to be. He discussed the controversies in the medical field

including cases where some doctors would abuse and manipulate the 医療制度. He gave

examples where some doctors were caught forcing patients to be hospitalized (入院) as they

can charge higher fees or conduct unnecessary surgeries. The medical law states that if the

patient does not have any symptoms for a certain disease, even if they were to receive

treatment, the fee would not be covered by insurance. (3 割)

【👇参考翻訳】

感想：

内科医師の人間味と謙虚さ、そして助手への配慮に感動しました。1時間の観察でしたが、彼は患者さんへ思いやりを持って接しており、私が目指す医師像であることがわかりました。彼は医療界の論争についても話しました。医師の中には医療制度を悪用し操作するケースがあることを取り上げました。高い料金を請求できたり、不必要な手術を行ったりするため、患者を無理に入院させる医師が摘発された例を挙げました。医療法には、ある特定の病気の症状がない場合、治療を受けても保険が適用されないという規定があります。（自己負担分がかかる）

フォームの始まり

桜の丘:

⚫ 特別養護老人ホーム

患者1:

⚫ 血中酸素濃度を観察しながら、転換発作を防ぐ薬の投与量を調整してる。

患者2:

⚫ 膵臓癌

⚫ 年齢を考えると(70 代後半)、癌治療は難しい

⚫ 腫瘍が下腹部にあり膀胱を圧迫していたため、血尿になっていた

難病指定: (書類)

⚫ 日常生活に害を及ぼす病気が認定されている

⚫ e.g. Parkinson’s Disease

As I tagged along with the doctors who were doing 回診 I got to observe the interaction

between the doctors and nurses from the hospital and the staff working at the facility. Both

members took note of the medicine the doctor was prescribing to avoid miscommunication

when a different doctor was to visit again. The staff also took note of the amount of food the

patients were consuming every meal as it played a factor in their weight change. The doctor

also let me touch the patient who was diagnosed with cancer and I had the opportunity to

touch her stomach which was tense due to her tumor. It was rare to meet a patient diagnosed

with cancer firsthand, so I felt sympathetic and wished the best for her.

I also met another student who was going to do an internship at this hospital. She has physical

and academic disabilities making her choices of work limited. The hospital welcomed her to

allow her to explore what occupations she could work in and what occupations would be

limiting. This allows her to make decisions before stepping out into society. The hospital also

hired two people with disabilities who work with laundry and I can tell that this hospital is

very open to accepting a diverse range of workers.

【👇参考翻訳】

医師たちが回診を行う中で同行した私は、病院の看護師や施設で働くスタッフとのやり取りを観察する機会を得ました。医師が処方する薬剤について、両者はメモを取り、別の医師が再び訪問する際に誤解が生じないようにしました。スタッフは患者さんが食事ごとに摂取する食事量にも注意を払い、体重の変化に影響する要素として記録しました。医師はまた、がんと診断された患者さんに触れることを許可してくれました。私は彼女の腫瘍による張り詰めた腹部に触れる機会を得ました。がんと診断された患者さんに直接会うことは珍しかったため、同情し、彼女のために最善を願いました。

また、この病院でインターンシップをする別の学生とも出会いました。彼女は身体的な障害や学習上の制約があり、働く選択肢が限られています。病院は彼女を歓迎し、どの職業が彼女に適しているか、どの職業に制約があるかを探求する機会を提供しました。これにより、彼女は社会に飛び出す前に自身の選択をすることができます。また、病院は洗濯の仕事をする2人の障害者も雇用しており、多様な労働者を受け入れる姿勢を持っていることが分かります。

フォームの始まり

内視鏡：

「盲腸をとる」＝「虫垂をとる」

患者：ポリープ

非腫瘍性ポリープと腫瘍性ポリープがある。

→ 腫瘍性は異常な増殖能力がある

→ がん化する場合

→ 5mm の大きさ以上であれば取り除くことが多い

→ いろんな素因が重なり合ってポリープはできる

なぜ内視鏡を？

⚫ 「大人のおもちゃのような感じになれる」

◯楽しい！

⚫ 昔内科の中でも、消化器を専門にしていた

⚫ カメラを通す

⚫ インジゴカルミン（青い色素）

◯病変の微細な凹凸を際立たせる

◯粘膜表面の構造が観察しやすくなる

⚫ シャボン玉や水で腸の汚物を排除する

⚫ スネアでポリープを潰す

出血はホチキスのようなもので止める

→ 二ヶ月・三ヶ月で便と一緒に流れる

憩室：

⚫ 上行結腸やS 字結腸は「憩室炎」になりやすい

◯憩室に糞便が溜まり続けることで内部に細菌が繁殖し、憩室に炎症が起こる状態

〇腸管穿孔：腸管に孔があく疾患

Thoughts:

In order to prep the patient there were several procedures. First, the patient was prepped with

IV drip treatment. There was a patient monitor that measured the SpO2 level as well from the

fingertips of the patient. As the camera traveled through the patient’s intestines, the camera

went through many pathways and holes to reach the designated area where the polyp was

located. The doctor discussed how this surgical process was rather profitable for hospitals as

removing one polyp would cost around ５万 and the patient would have to be hospitalized

for at least a day which would be around １０万. The patient had メラノーシス where her

skin tone appeared brownish, causing the polyp to be rather white unlike in usual

circumstances where the polyp is reddish. As the polyp was removed, it traveled through the

pipe and into a container that was divided and labeled into 4 parts. The nurses checked

whether the polyp was entering the container to ensure that it was removed from the body.

Polyps are divided into compartments and labeled because if in any case, the polyp was the

factor for cancer, the doctor can locate the source of the cancer arose and identify the type of

cancer the patient is diagnosed with. It was as though I was observing a minor surgery and it

was very fascinating to recieve the opportunity of looking inside the intestines.

【👇参考翻訳】

感想：

患者の準備のためにはいくつかの手続きがありました。まず、患者は点滴治療で準備されました。また、患者の指先からSpO2レベルを測定するための患者モニターもありました。カメラが患者の腸を進むにつれ、多くの経路や穴を通ってポリープが存在する指定の場所に到達しました。医師は、この手術プロセスは病院にとってかなり収益性の高いものであり、1つのポリープの除去には約5万円かかり、患者は少なくとも1日入院する必要があり、その費用は約10万円になると話しました。患者さんはメラノーシスという病状で、肌の色が茶色っぽくなっており、通常の状況とは異なりポリープは赤くなるのではなく白い色をしていました。ポリープが除去されると、パイプを通ってコンテナに移動し、4つの部分に分けられ、ラベルが付けられました。看護師は、ポリープがコンテナに入っているかを確認し、体内から取り除かれたことを確認しました。ポリープは区画に分けられ、ラベルが付けられているのは、もしもポリープががんの原因だった場合に、医師ががんの発生源を特定し、患者の診断されたがんの種類を特定することができるようにするためです。まるで小さな手術を観察しているようで、腸の内部を見る機会を得て非常に興味深かったです。

フォームの始まり

鍼灸師：（訪問診察）

⚫ 西洋医学と東洋医学の違い

〇西洋医学とは現代医学といわれるもので、患者さんの状態を科学的、局所的及び理

論的に分析し、症状の原因となっている病巣や病因を排除する治療を行う医学で

す。

〇東洋医学とは経験的な医学であり、患者さんの状態を四診（望診・聞診・問診・切

診）といわれる東洋医学的診察法を基に主観的に判断し、今ある状態を診断します。

効果：

⚫ 血液の循環を促す

⚫ 血液循環を良くする

⚫ 脳に刺激を与える

⚫ 痛みを抑制する仕組みを働かせる

⚫ 緊張をほぐす

⚫ 皮膚や筋肉などに刺激が加えられると自律神経の活動が変化する

〇自律神経が支配する臓器・器官の働きが反射的に調節される仕組みがある

医者も国家資格を取れば、鍼灸師にもなれる！

患者の様子：

鍼灸診察を行う前の段階では膝下が痺れ、足の裏が冷たかった。

→ 血液の循環が悪い症状

しかし鍼灸診察を半年してから、痺れは足首からでしかなくなった。

（一日１mm 程度で神経が治っていく）

治療：

⚫ 片方のふくらはぎに針を二本刺して電流を通す（鍼通電療法）

〇The patient’s leg was twitching: synchronic movement between both legs

【👇参考翻訳】

〇患者の足がけいれんしていました。両足の間で同時の動きがありました。

〇１０分程度

⚫ つぼ

〇The 鍼灸師 used a lighter to warm what looked like a game

piece and placed it on areas designated for つぼ.

〇The patient occasionally complained that it was too hot which

was a sign that her nerves were more sensitive.

〇The sole of the foot has several nerves making it effective

for this treatment

〇Relieves fatigue and exhaustion

【👇参考翻訳】

〇鍼灸師は、ゲームのように見えるものを温めるためにライターを使用し、つぼの指定された場所にそれを置きました。

〇患者は時折、それが熱すぎると不満を言いました。これは彼女の神経がより敏感であることを示すサインです。

〇足の裏にはいくつかの神経があり、この治療に効果的です。

〇疲労や疲れを和らげます。

フォームの始まり

⚫ 針には種類がある

〇太さのある針は電流などを通す時に最適

■細いと折れてしまう可能性がある

〇痛みに繊細な人は細い針を利用する

Thoughts:

I had never received 鍼灸 treatment before and it was my first experience observing needles

in a patient’s body. It is not often that we see 鍼灸師 working in a hospital environment as

they are not considered to be medical professionals so it was a rare experience for me,

especially as this medical consultation was done at the patient’s home instead of a clinic. The

鍼灸師 explained how there is not an exact form of treatment for the patients and it does not

necessarily mean that just because a treatment worked on one patient, it would work on

another. He finds this to be occasionally stressful as he has to find other new forms of

treatment for the patient. The patient herself seemed to be in pain due to old age and

struggled to move around the home. After receiving treatment she felt more relaxed which

was identified by her lowered heart rate (bpm). She also served us food by serving us her

homemade tea and homemade きゅうりの漬物 and 干し柿. It was a mix of sweet and savory

which was delicious. Her 干し柿 contained 柚子 making it even more tasty. Overall this

field was all new to me so it was an interesting learning experience to view how 鍼灸 works

and the role it plays in relieving the stress from patients. I hope that I can experience or try

鍼灸 in the future to relieve some of my physical pain as well!

認知症ケア：

The very character of the patient determines whether they are likely to be diagnosed with

dementia. If the patient carries a positive mindset, he/she would be liked by the people in

their surroundings, and will receive physical touch, preventing them from being depressed or

isolated. However, if the patient held a negative mindset, he/she would be more prone to

being depressed, leading to a higher probability of being diagnosed with dementia.

【👇参考翻訳】

感想：

私は以前に鍼灸治療を受けたことがなく、患者の体に針を見るのも初めての経験でした。鍼灸師が病院の環境で働いているのを見ることはあまりありません。彼らは医療専門家とはみなされていないため、私にとっては珍しい経験でした。特にこの医療相談は、クリニックではなく患者の自宅で行われました。鍼灸師は、患者に対して確固たる治療方法が存在せず、ある治療が1人の患者に効果があったからといって、別の患者にも同じように効くとは限らないと説明しました。彼はそれが時々ストレスになることもあるそうで、患者のために新しい治療方法を見つけなければならないと感じています。患者自身は高齢であり、家の中を移動するのに苦労し、痛みを感じているようでした。治療を受けた後、彼女はよりリラックスした感じがあり、心拍数（bpm）が下がったことで確認されました。彼女はまた、自家製のお茶や自家製のきゅうりの漬物、干し柿を私たちに出してくれました。それは甘くておいしい組み合わせでした。干し柿には柚子が入っており、さらにおいしかったです。全体的に、この分野は私にとって全く新しいものであり、鍼灸がどのように働き、患者のストレスを和らげる役割を果たすかを見ることは興味深い学びの経験でした。将来的には、自身の身体の痛みを和らげるために鍼灸の体験を試してみたいと思っています。

認知症ケア：

患者の性格自体が、認知症の診断を受ける可能性を左右します。もし患者が前向きな心構えを持っていれば、周囲の人々に好かれ、身体的な触れ合いを受けることがあり、うつや孤立を防ぐことができます。しかし、もし患者が否定的な心構えを持っていれば、うつになりやすく、認知症の診断を受ける可能性が高くなります。

フォームの始まり

せん妄：（脆弱な脳）

⚫ なんらかの影響により脳血流や脳代謝の異常を生じる

⚫ 2 次的に脳の機能低下が起こり、意識障害をきたしている状態

〇威嚇・興奮してしまう場合がある

〇薬物療法では基本的に抗精神病薬が処方される

■治療をしなければ脳の信号が乱雑してしまう

〇認知症と勘違いされやすいが、認知症とは違って一時的な症状である

認知症：

⚫ 一度正常に達した知的機能が、後天的な脳障害によって持続的に低下する

⚫ 意識障害がないにも関わらず、日常生活に支障をきたす状態

⚫ 中核症状と行動・心理症状（BPSD）

〇BPSD：行動・心理症状は、周囲の不適切なケアや身体の不調や不快、ストレスや

不安などの心理状態が原因となって現れる症状（二次症状）

〇中核症状壊れてしまった脳の細胞が担っていた役割が失われることで起こる症状

⚫ DSD：認知症のサポートグループ

〇せん妄と認知症の違いなどを広めている

高齢化が進む中、認知症ケアで目指していきたいこと：

Japan especially is still against accepting mental health as an illness and struggles to treat and

care for patients who suffer mentally. Unlike physical treatment, mental illnesses cannot be

“seen” causing people to take a step back from the patients instead of caring for them like it

is any other illness. There is also resistance against treating mental illnesses with “meds” as

people associate it with unhealthy addiction or mental instability. 澤村看護師 hopes that

through awareness, there will be less discrimination against those who are diagnosed with 認

知症 and wishes that they will be treated and recognized as an actual patient.

【👇参考翻訳】

特に日本では、メンタルヘルスを疾患として受け入れることにはまだ反対があり、心の病を抱える患者の治療やケアに苦労しています。身体的な治療とは異なり、心の病は「見えない」ため、人々は他の病気と同様に患者をケアする代わりに一歩引いてしまうことがあります。また、「薬物」で心の病を治療することに対しても抵抗があり、それを不健康な中毒や心の不安定性と結びつける人々がいます。澤村看護師は、意識を高めることによって、認知症と診断された人々への差別が少なくなり、彼らが実際の患者として扱われ、認識されることを願っています。

検査科:

医者との信頼関係が必須！

〇親密関係を保っていかなければ、患者に影響する場合がある

〇検査結果を医者に渡し、医者は受け取ったデータを信用して患者の病態の判断

を下さなければならない

〇チームワーク！

⚫ データを統一することが困難

〇標準値は各病院で異なる

〇機械の制度や製造会社によって値が異なる

⚫ AI を信用する必要がある！

〇心臓の動きは目で判断していたが、AI の進化により数値で決まることがある

⚫ 在宅にいくことが増えた

〇検査機を持っていく

〇患者の負担を減らすために（サポートをする！）

検査技師：

She was interested in being a scientific researcher as she enjoyed handling equipment but

realized that she would like to interact with patients and thus decided to pursue her current

job. She also enjoys this job as she gets to know the results of the patients first and she gets a

different thrill as she observes the patient using the echo.

【👇参考翻訳】

彼女は機器を扱うことが好きだったため、科学的な研究者になることに興味を持っていましたが、患者との交流もしたいと感じ、現在の仕事を選ぶことにしました。彼女はまた、この仕事が好きで、患者の結果を最初に知ることができるため、エコーを使用して患者を観察する際には異なるスリルを感じます。

⚫ 心電図

〇心臓が鼓動を打つ際の微弱な電気信号を波形として記録してその波形から心臓

の状態を把握する。

〇会社

■TOSHIBA

■HITACHI

■FUJIFILM

⚫ 心エコー

〇高い周波数の超音波（エコー）を用いて、心臓や血管の形・血液の流れを調べる

検査

〇心臓の大きさや壁の厚さ、動き、弁の状態、機能を調べる

〇The 検査技師 let me test the echo on the patient. ジェル was applied on the

プローブ and I placed it in the middle of the chest, however, the image appeared

black on the monitor. I learned how difficult it was to locate the heart and there

were skills required such as altering the angle at which the プローブ is placed or

adding more pressure to acquire better images.

As I explored around the 検査室 I saw the PCR machine which was smaller than I expected.

Since the genes are repeated several billion times, I thought the machine would be rather large

as the data needs to be stored, however, to my surprise the machine was very compact. They

also had a machine for testing blood samples and I learned for the first time where the data

for the blood test is obtained from. Also, since the hospital deals with several elder patients,

they had a 糖尿病 kit as well.

【👇参考翻訳】

〇検査技師は私に患者のエコーを試すことを許しました。ジェルをプローブに塗り、それを胸の中央に置きましたが、モニターには黒い画像が表示されました。心臓の位置を特定するのは難しいことを学びました。プローブを置く角度を変えたり、より強く押したりするなど、スキルが必要です。

検査室を探索していると、予想していたよりも小さいPCRマシンがありました。遺伝子検査は何十億回も繰り返されるため、データを保存する必要があると思っていたので、マシンはかなり大きいものだと思っていましたが、驚いたことにマシンは非常にコンパクトでした。また、血液サンプルの検査を行うためのマシンもあり、血液検査のデータがどこから取得されるのかを初めて学びました。また、病院が高齢の患者と取り扱っているため、糖尿病キットもありました。

フォームの始まり

レントゲン・CT スキャン：

MRI Scans:

Most of the human body is made up of water molecules, which consist of hydrogen and oxygen

atoms. When the body is surrounded by strong magnetic fields the protons in the body line

up in the same direction. Short bursts of radio waves are then sent to certain areas of the body,

knocking the protons out of alignment. When the radio waves are turned off, the protons

realign. This sends out radio signals, which are picked up by receivers. These signals provide

information about the exact location of the protons in the body. They also help to distinguish

between the various types of tissue in the body, because the protons in different types of tissue

realign at different speeds and produce distinct signals.

CT Scans:

Combines a series of X-ray images taken from different angles around your body and uses

computer processing to create cross-sectional images.（断面的）

【👇参考翻訳】

MRIスキャン：

人体のほとんどは水分子で構成されており、水分子は水素と酸素の原子からなります。体が強い磁場に囲まれると、体内のプロトンが同じ方向に並びます。その後、一定の部位に短いラジオ波のバーストが送られ、プロトンがアライメントから外れます。ラジオ波がオフになると、プロトンが再び整列します。これによって、受信機によって受信されるラジオ信号が発生します。これらの信号は、体内のプロトンの正確な位置に関する情報を提供します。また、異なる組織のプロトンは異なる速度で再整列し、独特の信号を生成するため、体内のさまざまな組織を区別するのにも役立ちます。

CTスキャン：

体のさまざまな角度から撮影された一連のX線画像を組み合わせ、コンピュータ処理を使用して断面像を作成します。

フォームの始まり

放射線を放出する機械と放射線の受信機は対角に設置されている

→ レールが回る（一周：0.5 秒）

画像：

Images can be produced from the side, front, and back (imagine an

apple being cut into slices from different angles). CT scans can also

produce 3D images of the entire organ to look at bone structures.

X-Ray:

There are two types of X-rays, one of which releases radiation instantaneously to produce

images of the bone structure. The other type releases radiation for a short period of time to

produce moving images of the internal structure of the body. The second type of imaging is

used to view how the body reacts/moves when e.g. food is being ingested. The strength of the

radiation used is not alarming.

【👇参考翻訳】

画像：

CTスキャンは、側面、正面、背面からの画像を生成することができます（異なる角度からスライスされたリンゴを想像してください）。CTスキャンはまた、骨の構造を見るために臓器全体の3D画像も作成することができます。

X線：

X線には2種類あり、骨の構造の画像を生成するために瞬時に放射線を放出するものがあります。もう一方のタイプは、短時間の間、体内構造の動画像を生成するために放射線を放出します。2番目の画像は、例えば食べ物を摂取する際の体の反応/動きを観察するために使用されます。使用される放射線の強度は懸念されるほどではありません。

フォームの始まり

→ 蓄積されない（年に5 回やっても体内の放射線の量が溜まっていく訳ではない）

⚫ 黒い部分は空気を多く含む

⚫ 空気の入らない密なところは白く写る（臓器）

The patient who conducted this test was diagnosed with 足部悪性黒色腫（メラノーマ）and

his cancerous cells were spread around his digestive system preventing him from being able

to eat proper meals. However, the patient’s desire was to be able to eat food, thus the doctors

conducted this test to see if a ステント could be inserted to expand his stomach. A liquid

that can be observed under radiation was inserted and from the monitor, I observed how the

liquid moved back and forth. Apparently, under normal conditions, the liquid will move

forward smoothly down the stomach, however, in this case, the liquid kept on contracting.

The doctor also added that with cancerous cells spread around his stomach, it won’t be able

to digest food as it has lost its function. Therefore the patient has no choice but to adjust his

eating habits by decreasing the portions of food he eats at once and increasing the number of

times he has his meals. It was my first time viewing a moving x-ray so it was captivating to

view how the organs inside of our body move.

【👇参考翻訳】

この検査を受けた患者は足部悪性黒色腫（メラノーマ）と診断され、がん細胞が消化器系に広がっていたため、適切な食事を摂ることができませんでした。しかし、患者の希望は食事を摂ることであり、医師たちはステントを挿入して胃を拡張することができるかどうかを調べるためにこの検査を行いました。放射線下で観察できる液体が注入され、モニターからその液体が前後に動く様子を観察しました。通常の状態では、液体はスムーズに胃を下に向かって進むはずですが、この場合は液体が収縮し続けました。医師はまた、がん細胞が胃に広がっているため、胃は食物を消化する機能を失っているため、食事を消化することはできないと述べました。したがって、患者は一度に摂取する食事量を減らし、食事の回数を増やすという食事習慣の調整をするしか選択肢がありません。私にとっては初めての動くX線を見る機会であり、私たちの体内の器官がどのように動くかを観察することは魅力的でした。

フォームの始まり

7.7.23

院長先生との面談：

⚫ チーム医療

Up until 4 to 5 or five years ago, the roles in the medical field were structured in a pyramid

where the doctor stood on top and the remaining workers were distributed below the doctor.

Thus when the doctor gave out instructions, by the time it reached the bottom of the pyramid,

half of the information was lost. This made communication ineffective and a new system had

to be implemented. Now, the hospital works as a team where every worker is a leader. They

cooperate as a team with the same goal: to treat the patient and provide them with care that

would make them feel safe. This teamwork allowed for information to be spread equally to

every member allowing for everyone to be on topic. The relationship between the workers

also deepened allowing for all members to be friendly to one another in the shared

environment. Doctors were also able to realize that they can rely on their fellow workers and

trust that they are able to manage their role when treating patients. The director had to follow

in his father’s footsteps to take over the hospital and thus had no choice but to apply to medical

school and become a doctor. However, he has no regrets and finds this job to be very

rewarding. He explained how he does not know to this day whether being a doctor is 理系 or

文系 as although the content is science-based, communicating with patients is considered to

be 文系. Patients cannot be just analyzed through science as they are human with emotions.

Thus it is important to sharpen skills involving understanding the patient's emotions and to

「共有」. The hospital also holds a diverse mindset which is reflected in the workers that are

hired. There are workers from different backgrounds and workers who have a learning

disability. The director stated that being a member of the medical department is かっこいい

and is who many would look up to (including me) disregarding culture or background. He

also had the opportunity to travel to France to observe how the 医療体制 was different

abroad compared to the medical system in Japan. He discussed how the occupation of the

doctor themself is not very much different, however, the way they approach patients and the

medical laws surrounding the doctor’s decisions are different. If I am accepted into medical

school, I hope that I can study abroad as well and learn different medical institutions to grasp

what it is from my perspective that makes a “good” doctor.

【👇参考翻訳】

4年から5年前まで、医療現場では医師が頂点に立ち、残りの従業員が医師の下に配置されるというピラミッド構造の役割分担が行われていました。そのため、医師からの指示がピラミッドの底に届く頃には、情報の半分が失われてしまっていました。これにより、コミュニケーションが非効果的になり、新しいシステムが導入される必要がありました。現在は、病院がチームとして機能し、すべての従業員がリーダーとなります。彼らは同じ目標を持つチームとして協力し、患者を治療し、安心感を与えるケアを提供します。このチームワークにより、情報が均等に各メンバーに伝わり、すべての人がテーマについて話し合うことができるようになりました。従業員同士の関係も深まり、共有の環境でお互いに友好的な関係を築くことができました。医師たちはまた、仲間の従業員に頼ることができ、患者を治療する際に彼らが自分の役割を管理できることを信頼しています。この病院の院長は、父親の後を継ぐために病院を引き継がなければならず、医学校に進学して医師になるしか選択肢はありませんでした。しかし、彼は後悔することなく、この仕事は非常にやりがいを感じるものと考えています。彼は、医師が理系なのか文系なのか、今日まで分からないと述べました。内容は科学に基づいていますが、患者とのコミュニケーションは文系とされています。患者は科学だけで分析されるわけではなく、感情を持つ人間です。したがって、患者の感情を理解するためのスキルを磨くことと、「共有」することが重要です。この病院では、多様なマインドセットを持っており、採用される従業員に反映されています。さまざまなバックグラウンドを持つ従業員や学習障害を持つ従業員がいます。院長は、医療部門のメンバーであることは「かっこいい」ことであり、文化やバックグラウンドを無視して多くの人々（私も含めて）が尊敬する存在であると述べました。また、フランスに渡って医療体制が日本の医療制度とどのように異なるかを観察する機会も持ちました。医師自身の職業はあまり変わらないものの、患者に接する方法や医師の意思決定に関する医療法律は異なると話していました。もし私が医学校に合格した場合、自分の視点から「良い」医師とは何かを把握するために、留学して異なる医療機関を学びたいと思っています。フォームの始まり

町づくり：パレット

甲佐町では高齢者が年々と増えていくが、地域包括ケアを通して彼らを支援し続ける。

⚫ 自立を維持できる

⚫ スポーツグループなどに所属するとより健康に過ごすことができる

⚫ 認知症の低下に繋がる

さらに若者向けの施設を増やし、甲佐町を若者にアピールして呼び寄せる。

社会的処方：

患者の課題を解決するために、地域の活動やサービスなどの

社会参加の機会を“処方”すること。 社会的に孤立しない

よう地域資源を活用することで、患者の健康やウェルビー

イング（幸福で豊かであること）を向上させることを目的と

している。

活動内容：

⚫ スポーツチームにユニフォームをプレゼント

⚫ プペルバス：にしのあきひろ氏の絵本「えんとつ町のプペル」の光る絵本展

〇子供や老人や障害者などが参加

⚫ 谷田農園

〇健康茶・にんじんドレシング・うどんなど

⚫ ホテルNIPPONIA

〇患者の家をリフォームしてホテルを建てた

〇介護も取り組んでいる

■体が不自由な方に対するバリアがあるところにそのような患者を連れてきて、バ

リアを解除する

⚫ 看護師（新人）

〇マンツーマンで先輩が付き添ってくれる

〇資格などの費用は病院が払ってくれる

⚫ ナースステーションに戻らず、患者の記録は患者の室の横で記入できる

〇残業することがなくなった

など

Thoughts:

Fuji-san is very creative and takes action as soon as he comes up with an idea. He has planned

several wide-scale projects to change 甲佐町 and I admire his work ethic and passion for

business management. Though I am not particularly looking to pursue economics or business

in the future, Fuji-san demonstrated the importance of not hesitating to take action. My

favorite line was 「やってみないとわからない。とりあえずやってみることが大事。」I hope

that in the future I will continue to keep this mindset and challenge myself to take action to

continue to develop and leave an impact on the medical field.

Roommates <3

はなさん was a kind soul and we had occasional chats when we returned to the dorm. She

talked about her life in Vietnam and how she graduated with an economics major and received

the top grades out of her class. She also shared how her dad worked as a doctor in the military

field and saved people during the Vietnam War. She had lost her second brother who drowned

in the ocean and her eldest brother works as an engineer. はなさん wanted to study Japanese

and thus moved to Japan. It is her first year here and works in the 栄養科 department where

she serves drinks to the patients. She told me about her struggles with moving to Japan as she

had to start all over again, from the very beginning of having to learn an entirely new language.

She also has not been able to meet her family in Vietnam since last year and misses them very

much. Her dream job is to be a bus tour guide and she is planning to move to Osaka in a few

months to pursue her dreams. She is much older than I am, however, she approached me in a

kind manner and we even exchanged Instagram! She gave me the motivation to work hard to

get accepted into medical school and said that she hoped to see me in ten years as a doctor :)

Su-san also was someone who I will remember forever. Her kindness and her beautiful smile

leave an impact on many of her patients and she is very popular amongst the elderly. She has

treated me like a younger sister and we shared many laughs together. She is very hardworking

and is an amazing person that I look up to dearly.

【👇参考翻訳】

感想：

藤井さんは非常に創造的で、アイデアが浮かぶとすぐに行動に移します。彼は甲佐町を変えるためのいくつかの大規模なプロジェクトを計画し、ビジネスマネジメントへの情熱と仕事への倫理に対して感銘を受けます。将来的に経済学やビジネスを追求する予定はありませんが、藤井さんは行動を躊躇しないことの重要性を示してくれました。私のお気に入りの一文は「やってみないとわからない。とりあえずやってみることが大事。」です。将来もこのマインドセットを持ち続け、自己挑戦し、医療分野で発展し、影響を与え続けるために行動を起こすことを願っています。

ルームメイト <3

ハナさんは優しい人で、寮に戻ったときにたまにおしゃべりをしました。彼女はベトナムでの生活や、経済学を専攻し、クラスで最高の成績を収めたことについて話してくれました。彼女のお父さんは軍の医師として働き、ベトナム戦争中に人々を救ったとのことです。彼女は2人目の兄弟が海で溺れて亡くなり、長兄はエンジニアとして働いています。ハナさんは日本語を勉強したくて日本に移住しました。彼女はここでの初めての年で、栄養科で患者に飲み物を提供する仕事をしています。彼女は日本への移住についての苦労も話してくれました。まったく新しい言語を学び始めるということから、最初からやり直さなければならないということです。また、昨年以来ベトナムの家族に会えていないため、とても寂しい思いをしています。彼女の夢の仕事はバスツアーガイドであり、数か月後に大阪に移り、夢を追いかける予定です。私よりもはるかに年上ですが、彼女は優しい態度で接してくれ、Instagramのアカウントも交換しました！彼女は私に医学部に合格するために頑張る励みを与えてくれ、10年後には医者として会いたいと言ってくれました。

スーさんも、ずっと記憶に残る人物です。彼女の優しさと美しい笑顔は、多くの患者に強い印象を与え、高齢者の間で非常に人気があります。彼女は私のことを妹のように大切に扱ってくれ、一緒にたくさん笑いました。彼女は非常に働き者で、私が深く尊敬する素晴らしい人物です。

フォームの始まり